



# 学園通信

練馬区立大泉学園中学校

平成30年2月28日発行 校長 晴佐久和彦

## Welcome to Tokyo! 2020 に向けて

副校長 今本 由美子

ピョンチャンでのオリンピック大会が閉会しました。間もなくパラリンピック大会が始まります。東京オリンピック・パラリンピック大会もずいぶん先のこととと思っていましたが、あっという間に開催まであと2年となっています。

12月に行った3年生の面接練習では、多くの学園中生が、何かしらの形で2年後の東京オリンピック・パラリンピック大会に関わりたいという思いをもっている事が感じられました。特に多かったのは、ボランティアスタッフとして、会場やその周辺で様々な国や地域から日本を訪れた外国人の方々とふれあいたいという声でした。それが、英語を勉強しよう、英会話のスキルを上達させようというモチベーションにつながるとすれば、とても喜ばしいことです。普段の学校生活を見ても、ALTの先生と自然に英語であいさつを交わし、授業では、ジェスチャーを織り交ぜながら、自分の考えを一生懸命伝えようとする姿勢に、2年後、そしてその先の未来の学園中生（その頃には学園中の卒業生ですね。）の活躍が期待されます。

そんな、学園中生だからこそ、語学力の向上とともに身に付けて欲しい力があります。それは、自分の考えをしっかりともち、堂々と発信できる力、そして、自分たちの国や地域のことを誇りをもって語れる力です。これは、海外の人たちと交流するとき必ず必要となる力です。相手の国の歴史や文化を知り、必要な配慮ができることももちろん大切なことですが、それと同時に、自分たちの住む国や地域について、正しく知り、伝える力はこれからますます必要となってきます。

もうだいぶ前になりますが、海外にホームステイしたときのことです。ある日、大学生のホスト・シスターが、友達の家で行われるパーティに誘ってくれました。気軽な気持ちで連れて行ってもらうと、彼女の友達が次々やってきて、いろいろな質問を受けました。日本の気候、災害、地理、歴史や文化、教育システム、社会問題について…など。せっかく興味をもって聞いてくれているのに、その質問にきちんと答えられない自分に、気持ちは沈む一方でした。自分の国のことなのに、自分の住んでいる地域のことなのに、こんなにも分かっていなかったのだという落ち込み。だんだんと質問されることが怖くなってきて、できるだけ目立たないようにして、時間が過ぎるのを待っていたことを覚えています。

英語はコミュニケーションツールです。正しい文法知識や語いを身に付け、運用する力を高めていくことは、正確に、スムーズに情報を伝え合うために必要です。しかしそれだけでは、人と上手くコミュニケーションを図ることはできません。自分を知り、相手を知り、様々な知識や情報を吸収して、柔軟に対応できる力を身に付けていくことを同時に心がけましょう。これらの力は、日々の教科の学習、道徳や総合的な学習の時間の取り組み、委員会活動や部活動、家庭生活などを通して身につけていくものです。真の国際人となるべく、英語に興味をもち、英語の習得に励むとともに、日々の学習や諸活動に一生懸命取り組む学園中生であってほしい、そう願っています。

# スキー移動教室を終えて

2 学年主任 山中 修



楽しかったスキー移動教室が終わりました。天候にも恵まれ、みんなそれぞれに、充実した4日間になったことと思います。スキーの技術や、普段の学校生活では体験できないことをたくさん学ぶことができ、3年生になったの修学旅行に向けて、成果と課題もできました。

「努力」「協力」「責任」、この3つの言葉は普段よく使われるものですが、生徒の作文や、スキー移動教室中の実行委員のあいさつの中に、「感謝」という言葉も数多くみられました。



「努力」は、スキー実習でのことを書いた作文に、最初は不安だったスキーを最後まであきらめずに努力したことで上達し、充実した達成感を得たことが文章に表れています。つまり、“やればできる”ということであり“努力は必ず報われる”ことを3泊4日のスキー移動教室は証明してくれたのです。

「協力」「責任」「感謝」という言葉は、レクリエーションの取り組みや、前日までのレク係の準備と当日の進行や、各係の仕事について書かれた作文にたくさん出てきました。



特に「感謝」という言葉は、スキーのインストラクターの方々、宿舎の方々、バスの運転手さん・ガイドさん、そして先生方…に向け、作文や実行委員のあいさつの中で多くみられました。

4月からの義務教育最後の1年間のスタートに向け、「自覚」と「成長」への良いきっかけになってくれたものと感じています。

## ～スキー移動教室のしおりより～

初めてスキーをやって、始めは上手いかず、最終日に上から滑れるか心配でした。しかし、やっているうちに滑れるようになってきて、上手くなることができました。とても楽しかったです。

また、生活面でも、普段の生活では乱れ気味だったことを正すことができたと思いました。

このスキー教室を通して、たくさんのことを学び、仲間との“きずな”も深まったと思いました。

A組 女子



最初は、スキーができるか不安だった。やってみたら、難しく大変だったが、とても楽しく、とても良い経験だったと思う。また機会があればスキーをやりたい。

係の仕事も最後までやり遂げることができた良かった。部屋の整理や会議なども早くでき、すぐに終わることができた。

この移動教室で学んだことを普段の学校生活でもやっていきたいです。 B組 男子

友達といっしょに起き、ごはんを食べ、お風呂に入り、スキーをし、レクをする。その体験がとても新鮮でおもしろかった。この4日間で友達とのきずながより深まったような気がする。毎日の学校生活で、この“きずな”を大切にしながら日々を過ごしていきたい。

また、全くスマホに触れない3日間と半日だったが、いつもよりもよく眠れたように思う。やはりスマートフォンは体に悪影響なのかなと考えた。 C組 女子

今回4日間で私は自分をもう一度振り返ることができたのではないかと思います。スキー実習1回目の時には、何回も転んで、「私はスキーが得意ではない。」とっていました。でも、最後の実習では、1回も転ばず、スピードを出して滑れたので、やはり日々の積み重ねが大切だと感じました。何でもたくさん練習して上手になるので、すぐにできないと諦めるのではなく、何回も何回も挑戦し、できるまで頑張る。その気持ちが大切だと感じ、自分に足りなかったのは“諦めずに何でも挑戦すること”だと思いました。

今回の移動教室で自分に何が足りないのかを見つけることができたので、しっかり何でも挑戦して、自分の得意だと言えるものを増やしていきたいと思いました。 D組 女子

スキーでは、1日目は全然できなかったのに、2、3日目ではだいぶできるようになった。パラレルの小回りなどもできた。

生活面では、みんなと協力して時間をちゃんと守れた。一部決まりを守れなかった人もいたけど、全体ではよくできた。今回のスキー教室を通して、協力の大切さを学んだ。一人一人が時間を守り、決まりを守ったからこそ、こんなにいいものになったんだなと思いました。 E組 男子



## 芸術鑑賞教室（狂言）を実施して

2学年担当 武田 雅之



2月22日（木）の5・6校時に芸術鑑賞教室（狂言）が行われました。大泉学園中では、毎年2学年で芸術鑑賞教室を行っていて、練馬区にゆかりのある『万作の会』の方に来ていただいています。今年も事前学習として、能と狂言について学び、独特の言い回しや言葉の意味を理解して当日を迎えました。武道場を舞台に見立て、平均台で橋掛かりを作り、鏡板と呼ばれる正面には、大きな松の絵を飾りました。舞台の端から一番前の生徒まで、わずか数十センチです。迫力のある狂言を間近で見ることができました。

事前学習では、生徒は狂言に余り興味をもてなかったようですが、演技が始まると、その独特の世界に引き込まれていき、大きな笑いや歓声が聞こえてきました。「鯛の鳴き声がおもしろかった」、「うそ泣きのタイミングがぴったりだった」、「声の響きがすごかった」など、感想に書いていました。日本の伝統文化に触れる貴重な体験ができました。



## ゲストティーチャーによる授業（和菓子づくり体験）

家庭科担当 深津 肖子

2月20日火曜日、1年生の家庭科の授業では、本校の同窓生でもある佐藤 公明さん（あわ家惣兵衛さん）をゲストティーチャーにお招きして授業をしていただきました。

最初にわらび餅の作り方を実演していただきましたが、どのクラスも集中して、よく説明を聞いていました。わらび餅が固まる瞬間には、「ワァ〜！」と歓声があがっていました。その後、班ごとにわらび餅作りに挑戦しましたが、全班、協力しながら手際もよく上手に作っていて、どの班もよくできているとお褒めの言葉をいただきました。

わらび餅を冷ましている間には、職業講話で聞いた練り切りも実演していただきました。材料に着色し、専用の道具を使って、あっという間に菊の花の練り切りができ上がり、生徒から思わず「プロみたい！」という言葉が飛び出し、みんなで笑ってしまう場面もありました。

その後、できあがったわらび餅を食べましたが、プルプルして食感もよく、あちこちから「おいしい〜！」という声が聞こえてきました。

今回は、地域の方にご協力いただき、本職の技を間近で見ても感動したり、日本の伝統文化の一つである和菓子の特徴などを教えていただいたり貴重な体験をすることができました。

